

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)
2	日 時	令和4年8月8日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	中島完二委員長、松尾園子副委員長、宮澤和芳委員、大倉直樹委員、黒岩潤一朗委員、野口志郎委員、中田平男委員、加島美智代委員、津村孝夫委員、丸山昌則委員、柳原史明委員、平田米子委員、小林みずき委員、小池晃委員、古幡栄一委員
5	市側出席者	赤澤農林部長、山崎農政課長、中村農業政策係長、中澤課長補佐兼生産振興担当係長、布山生産振興担当係長、北條課長補佐兼農村振興担当係長、佐野農村振興担当係長、佐藤耕地林務課長、中田耕地担当係長、小松耕地担当係長、宮沢農業委員会事務局長、農業政策係鈴木主査、農業政策係奥原主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和4年8月12日(金)

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会(山崎農政課長)
 - (2) 農林部長あいさつ(赤澤農林部長)
 - (3) 委嘱書交付(赤澤農林部長)
 - (4) 委員長・副委員長の選任、あいさつ
 - (5) 自己紹介
 - (6) 安曇野市農業農村振興計画推進委員会について
 - (7) 安曇野市農業農村振興計画について
 - (8) その他
 - (9) 閉会
- 2 (4) 委員長・副委員長の選任
 - ・自薦、他薦なく、事務局の腹案により委員長に中島完二氏、副委員長に松尾園子氏を選任
- 3 (5) 自己紹介
 - ・安曇野市農業委員会の会長をしている。いくつかある農業課題のうちひとつは、農業従事者の減少である。令和元年度に農業従事者にアンケートを行った結果、33%が5年後には後継者不足で農業を継続できないと回答した。令和4年度の現在は、米価上昇、資材や肥料の高騰により後継者不足が深刻化し、さらに農業従事者が減少している。
 - また、担い手の高齢化が進み、予定よりも担い手の減少が著しい。それにより、一人当たりの管理する面積が大きくなっている(中山間は特に)。そして、管理しきれなくなった土地が荒廃農地となっていくのは大きな問題と考える。
 - もう一つの問題は、農林水産省からの要求が厳しくなっていることである。例えば、人農地プランの実施法や、農業委員の活動日誌の提示である。活動日誌については、

活動日数は年間 200 日と定められていた。また、集積した土地を担い手ごとに集約（団地化）させなさいという要求が農業委員会にあった。農業委員だけでは人手不足なので、農政課と協力し、打ち合わせをしながら、課題解決に取り組んでいきたい。

- ・三郷明盛で水稻中心に農業法人を経営している。また、安曇野・comeにも参加している。日頃感じている農業課題としては、安曇野の農地を守るために、どのように子供世代に農業に関心を持ってもらうかということである。子供世代に農業の魅力を伝えることで、安曇野市の農地を守ることに繋がっていきたいと考える。

- ・果樹農家を経営しており、安曇野経営者の会代表として会議に参加している。地元である小倉地区は新規就農者の方が多いが、30 代が多く、その後に続く 20 代、10 代の人材育成が重要と考える。中島会長同様一人当たりの管理する面積が大きくなっていることを問題視しており、今後さらに問題が大きくなった時にどのように対処していけばよいか日頃から話し合い等行っている。アドバイス等あればいただきたい。

- ・父の代から行っているワサビ栽培を 3 年前継いで現在に至っている。課題としては、ワサビ田の湧水が、父の代に比べ少なくなっていることである。どのように解決していくか今後もしっかり検討していきたい。

また、荒廃農地が多くなっていることも課題である。新規で入ってくる人への負担が大きいため、荒廃農地対策をしないことにはすべての課題解決につながらないと考えている。荒廃農地の復活は人力では厳しいため、うちでは機械化を進めているが、費用や安全性の問題が大きいため、どのように機械化を促進していくかも考えていきたい。

- ・明科南陸郷中山間小泉集落代表として会議に参加している。代表になって 3 年目である。中山間事業の参画協定者は 75 名で、18.8ha ほどの農地を管理している。作付けは水稻が 68%、畑 21%、保全管理 11%である。農業に関する問題点として、耕作を続けたいが条件の悪い農地が多いこと、鳥獣害問題が深刻であること、耕作意欲の減退などがあげられる。営農組合に委託し、担い手確保はできているが、すべての委託を受けきれないのも課題である。今後の対応の方向性としては、高齢者による担い手育成・確保や、基盤整備による耕作条件の改善、集落・コミュニティー等の強化、鳥獣対策の継続など。意見等いただき、研究、検討を進めたい。

また、国道、市道、農道の草刈が十分でなく、景観が損なわれている。

- ・市土地改良区連絡協議会会長として会議に参加している。荒廃農地を活用した果樹栽培を行っている。全国一位のりんごを目指し活動していたが、昭和 60 年ごろには、安曇野ふじが 3 位に入り達成感を感じている。農家、農協、行政の 3 者が協力して、取組の推進を進めていくことが重要と考える。

- ・長野県農村生活マイスター代表として会議に参加している。マイスターとは、県内では 780 名の女性が認定された団体で、安曇野支部では現在 53 名が活動している。農のある暮らしを豊かに、次世代に農村文化、食文化を伝える活動をしている。また、食育活動も行っている。農業課題としては、世代交代により農業、農地への関心が低下

していると感じている。個人経営者が多い中、経営を勉強してから農家になる人が少ないため、経営を学べる場所があったらいいと考える。

- ・市の農家民宿連絡協議会の代表として会議に参加している。おもな活動としては、農業に関わりのない県外の中学生、高校生が、農家の方の話を聞いたり、交流をした後、その農家の民宿に宿泊してもらうという活動を行っている。そこで少しでも農業に興味をもってくれたらと思っている。また、国の農業政策について話し合いを行ったり、知れる機会が少ないのが根本的な問題と考える。海外からの安価な農産物に高い税をかけるべきだ、など規模の大きい話し合いができる場が必要である。

- ・これまで出張が多く、外から安曇野市をみたことで、災害に強いという魅力があることにあらためて気づいた。しかし、“安曇野市”という漢字を読める人が少ないことや、そもそもどこにあるか知らない人が多いのは残念である。安曇野市のみならず、日本全体の農業衰退を防ぐためには、農業の良さを子供にもっと伝えていくべきだと考える。直売所を見せるなどして、農作物が販売され、実際にお金になっているところを見せることで、農業でも生活していけるということを知ってもらうことは大切だと考える。また、商業・工業施設は今あるほど必要なのかを改めて考え、農地が虫食い状に無くなっていくのを防ぐべきであると考え。

情報公開をもっとしていくべきであると考え。この時期にはカメムシの被害が大きいため、防除対策を行っている。農家は何の作業かわかっても、非農家は何を行っているのかわからないため、積極的に情報公開するべきである。

- ・農家の高齢化、担い手不足、資材高、荒廃農地の放棄など数多くの問題があるなか、持続可能な農業をどうしたら実現できるか考えていくべきである。具体的には、自然災害による被害に対応していく力がより必要とされていると感じる。

また、農家の収入安定や、持続可能な農業の実現がされればよいが、実際農家個人でその課題を解決するのは困難なため、JAをはじめ皆さんと協力して課題解決に取り組んでいきたい。

- ・消費者の会とは、地産地消を推進したり、季節ごとの材料を使い、ソースやみそを作って交流をしている。日頃感じている農業課題としては、気候変動への対応を深刻化する前にするべきである。また、安曇野市の農産物をどのように発信していくかを考えることの大切さを感じている。

- ・農業経済学を専門としている。農業と農村の隔たりが大きいことが課題と考える。農家の方と移住者、非農家との関わりも視野に入れていきたい。だが、課題のみに目を向けず、いいところのベースアップをするべきであると考え。

- ・市内農業高校で畜産を教えている。コロナの影響により、若い子供が実際に現場を見に行く（農家に実習に行く）機会が少なくなってしまう、農業法人への就職が5、6人から3名に、土木の関係は10数名から4名に下がってしまった。実際に現場を見ること、体験することの大切さを感じている。担い手を輩出するために日々格闘している。マネジメントの学習をしたり、大学との交流を通じて、農業大学校から地元へ

就農したりしてほしいと考えている。地元で就農できる仕組みづくりに取り組んでいきたいと考える。

- ・市の教育指導員として普段の業務は農家と児童生徒との農業交流体験を実施したり、地産地消へのアプローチも行っている。子供たちにいかに農業への関心を持ってもらうかが課題と考える。

- ・直売所の代表として会議に参加している。安曇野市では、スーパーが新しくでき、総菜が充実し、手軽に食べられるように発展してきたが、豊科旬彩市はほぼ素材（材料）で、なかなか直売所だけで買い物を完結してもらうことは難しいと感じている。直売所の組合員も高齢化が進んでいるが、世代交代ができずにいる。いなくなっても新しい人が入ってこないのが現状である。

お米を売りに始まった直売所だが、お米の売れ行きはあまりよくない。直売所は本来、その場所でその時期にとれたものを販売するが、最近は客層も変わってきて、冬になすやきゅうりを求めてくる人もいるため、入荷するようにしているが、本来の直売所の在り方と違うと感じている。

また、肥料や機材の値段は高騰しているが、農産物の値段は上がらないことも問題視している。

4 協議事項

（１）安曇野市農業農村振興計画推進委員会について

【主な意見等】

なし

（２）安曇野市農業農村振興計画推進委員会について

- ・第２次計画の総括について（実績報告）

【主な意見等】

なし

- ・第３次計画の取り組みについて（経過報告）

【主な意見等】

委員：土地改良区の関係者として意見したい。安曇野市では水田による涵養で、地下水保全に貢献しているとあるが、一部地域では、麦収穫後の時期に農業用水が不足するところもある。また、真々部地区などは麦後に大豆を作付けし、農地を効率的に活用している。他県では、レンコン栽培による涵養をしている事例もあるため水耕作物の研究も必要と考える。市として、水張に補助金を交付するだけでなく、農業生産力を上げる施策が重要であると感じる。

また、改良区、国と調整し、農業用水が不足することが無いようしっかり調整をしていただきたい。

事務局：６年前から知力増進として麦後湛水を実施しており、今年度から環境課所管事業となった。農政課としてもブロックローテーション等による事業推進が重要と考えている。いただいたご意見を参考にしていきたい。

5 その他

- ・第3次計画が始まったばかりなので、今年度の委員会は第一回のみで終了。

以上